

山形保険医新聞

Yamagata medical practitioners newspaper

発行
山形県保険医協会

〒990-0043 山形市本町二丁目1の2フコク生命ビル
電話 023 (642) 2838
FAX 023 (642) 2839

購読料 円共1ヵ月 500円
印刷 コロニー印刷

第500号

7月号 TOPICS

- 2面…学校健診後治療調査から
- 3面…施設基準管理Webセミナー
- 4面…初夏の歯科総行動集会
- 5面…日本の城郭
- 6面…新型コロナワクチン接種



山形保険医新聞500号発行にあたって

理事・広報部長 堀米 亨

山形保険医新聞500号発行にあたって、ご挨拶を申し上げます。

私が山形保険医新聞の発行に携わるようになったのは、1999年11月に広報部員になってからです。それから20年以上の月日が流れ、気がつけば、これまで発行した新聞の半分以上に関わったこととなります。

編集会議の内容は、原稿を読み合わせ、句読点の位置や文章が適切かどうかを検討し、掲載に問題はないか協議したり、次号の紙面構成などを討議することです。

この際、自分の知らないことや不確実なことを、諸先輩方から教えていただく良い機会になり有意義だったと思います。とはいえ、はじめの頃は、編集会議に行った後に先輩の先生に連れられて飲みに行くことが一番の目的だったような気がします。

この20年間、良いことも悪いことも多くありましたが、コロナ禍をはじめ、悪いことの方が記憶に残っているようです。2005年の山形県保険医協会初代理事長平沢敏先生の訃報をはじめ、多くの会員の先生の訃報に接しました。特に昨年亡くなった初代広報部長の五十嵐博一先生には、長年に渡りご指導いただきました。生前のご厚情に感謝いたします。

今後も医療機関の役に立つ情報を掲載し、会員の交流の場となるよう広報部員一同頑張りますので、ご愛読いただきますようよろしくお願いいたします。

2021年7月

院内感染対策・診療用放射線 医療安全管理テキスト 要望に応え解説動画配信

協会は、毎年2回県内4会場で開催していた医療安全管理研修会を新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年から中止し、院内研修用のテキストを作成。今年は、要望の多かったテキストの解説動画も6月21日から7月20日まで1ヵ月間無料で配信している。動画は協会ホームページから視聴可能で、テキストにID・パスワードを記載している。

内容は、院内感染対策と、診療用放射線の安全利用について。解説動画の講師はICD認定医の中島幸裕理事長が務めた。院内感染対策は、昨年作成した院内研修テキストの内容を改訂し、新型コロナウイルスの変異株やワクチンの種類などの情報を追加して掲載。解説動画では新型コロナウイルス対応について、中島先生が自院での取り組みを紹介した。

医療機関での診療放射線に係る職員研修は昨年1年に1回程度行うことが義務付けられており要望が多かった。今回は日本医学放射線学会専門医・日本ICD研究会の監修をお願した。

研修内容は、①医療被ばくの考え方、②放射線診療の正当化、③放射線診療の防護の最適化、④放射線障害が生じた場合の対応、⑤放射線診療を受ける者への情報提供の5項目があり、放射線検査を実施する医師および歯科医師は5項目すべての研修を行わなければならない。対象となる医療従事者は、医師や歯科医だけでなく、患者に説明を行う看護師なども含まれる。なお看護師は①、④、⑤の研修を受ければよい。テキストと解説動画は、5項目すべてを網羅している。

テキストには院内感染対策、診療用放射線の院内研修記録用紙を掲載している。院内研修を行った日時や参加者を記載して保健所の立ち入り検査の際に提示する。必ずしも解説動画を視聴する必要はなく、テキストを活用し院内研修を行うなどの対応でもよい。テキストは1700冊を超える注文があった(6月末現在)。今後もコロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、Web配信併用の研修などを企画していきたい。

協会では、毎年2回県内4会場で開催していた医療安全管理研修会を新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年から中止し、院内研修用のテキストを作成。今年は、要望の多かったテキストの解説動画も6月21日から7月20日まで1ヵ月間無料で配信している。動画は協会ホームページから視聴可能で、テキストにID・パスワードを記載している。

内容は、院内感染対策と、診療用放射線の安全利用について。解説動画の講師はICD認定医の中島幸裕理事長が務めた。院内感染対策は、昨年作成した院内研修テキストの内容を改訂し、新型コロナウイルスの変異株やワクチンの種類などの情報を追加して掲載。解説動画では新型コロナウイルス対応について、中島先生が自院での取り組みを紹介した。

医療機関での診療放射線に係る職員研修は昨年1年に1回程度行うことが義務付けられており要望が多かった。今回は日本医学放射線学会専門医・日本ICD研究会の監修をお願した。

研修内容は、①医療被ばくの考え方、②放射線診療の正当化、③放射線診療の防護の最適化、④放射線障害が生じた場合の対応、⑤放射線診療を受ける者への情報提供の5項目があり、放射線検査を実施する医師および歯科医師は5項目すべての研修を行わなければならない。対象となる医療従事者は、医師や歯科医だけでなく、患者に説明を行う看護師なども含まれる。なお看護師は①、④、⑤の研修を受ければよい。テキストと解説動画は、5項目すべてを網羅している。

テキストには院内感染対策、診療用放射線の院内研修記録用紙を掲載している。院内研修を行った日時や参加者を記載して保健所の立ち入り検査の際に提示する。必ずしも解説動画を視聴する必要はなく、テキストを活用し院内研修を行うなどの対応でもよい。テキストは1700冊を超える注文があった(6月末現在)。今後もコロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、Web配信併用の研修などを企画していきたい。

山形から初めて1等当選 ダイソンハンディクリーナー



協会が昨年10月、本年3月に取り組んだクイズ「私たちが考えるクイズ」の抽選が行われ、当選総数11万3559通(山形5067通)の中、協会から1等ダイソンハンディクリーナー1名、2等カクタログギフト7名、3等クオカード9名、4等エコバッグ23名の計40名が当選しました。当選は賞品の発送によりお知らせしました。1等が当たった天童市のE・Kさん(39歳)は、「負担ばかりが増えて困る。税金を払っている意味がない」とハガキに記載。そのほか、高齢者の窓口負担増反対や受診控えの現状など、多くの患者さんから貴重なご意見を頂戴しました。今後の要請活動に活用させていただきます。ご協力いただいた会員の皆様、ありがとうございました。今後も取り組みへのご協力をお願いいたします。

クイズで考える
私たちの医療

医療安全管理 院内研修用テキスト

院内感染対策の実践
新型コロナウイルス感染症対応

診療用放射線の安全な利用のために

制作：山形県保険医協会
監修：中島 幸裕
発行：中島 幸裕

や延期はもうない状況となったが、果たして本当に大丈夫だろうか。大会中、まん延防止を適用するようだが、緊急事態宣言が長期に継続された中、「宣言慣れ」という現象も起きている。新型コロナウイルス禍への政府の対応について、体系的な戦略や態勢が感じられず、国民への納得感のある説明が十分になされていない。国民にだけ自粛を押しつけることが五輪開催反対の声の多さにつながっていると考えられる。新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾見会長は、「この状況での開催は通常はない」と言い切った。夏休み、お盆に五輪が重なることで人流が増えることは想像するに難くない。安全安心な大会の開催を求められる中、日本はコロナに対抗する技術も倫理もなく、なし崩し的に開催することに危惧をいだく人は少なくない。

話は変わるが、コロナ禍の中、当法人のグループホームの入居者が入院し看取りを迎えることになった。ところが、この状況で止むを得ないことであろうが、短時間ではあるが毎日面会できていた長女と会えない状況になってしまった。家人は、訪問診療を利用しながらグループホームに戻る選択をした。リスクを最小限にし応援しようと思う。

(F)

つばさ

英国でのG7サミットは、東京五輪開催支持を表明し、開催が国際公約となった。中止